

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3 年次生 小橋彬徳

1. はじめに

私は、2024 年 3 月 11 日から 20 日までの間、大阪医科薬科大学薬学部によるオーストラリアでの薬学語学研修に参加し、New South Wales 州のキングスクリフにある TAFE に通い、薬学、語学、およびアボリジナルの文化について学びました。

渡航前、日常会話レベルの英語をすらすら話することができることを目標としました。

2. 授業について

TAFE(写真 1, 2)は職業訓練校で、幅広い国から様々な年齢の方たちが通っているのがわかりました。

English class

平日の午前中に授業があり、オーストラリア独特の言い回しや、オーストラリアの動物の説明から、動物の写真を当てるゲーム、ペアを作って廊下に貼っている英文を一人が覚えて、もう一人に正確に早く伝達するゲームなど、参加型の授業で楽しく英語を学ぶことができました。

Pharmacy class

平日の午後から授業があり、この授業ではオーストラリアの薬剤師、薬などについて学び、オーストラリアと日本との違いを知ることができました。

例えば、胃もたれや胃がむかついたときに、日本ではガストールなどのプロトンポンプ阻害薬や H_2 受容体拮抗薬などを使いますが、オーストラリアでは Gaviscon(写真 3)という薬を使います。この薬の主成分はアルギン酸ナトリウムで、胃に入った時に泡のようになり物理的に保護するという薬で、とても興味深かったです。

また、別の日にはグリフィス大学(写真 4)を訪問し、軟膏調合体験や医療の VR の活用法を学び、標本室などを見学しました。



写真 1



写真 2



写真 3

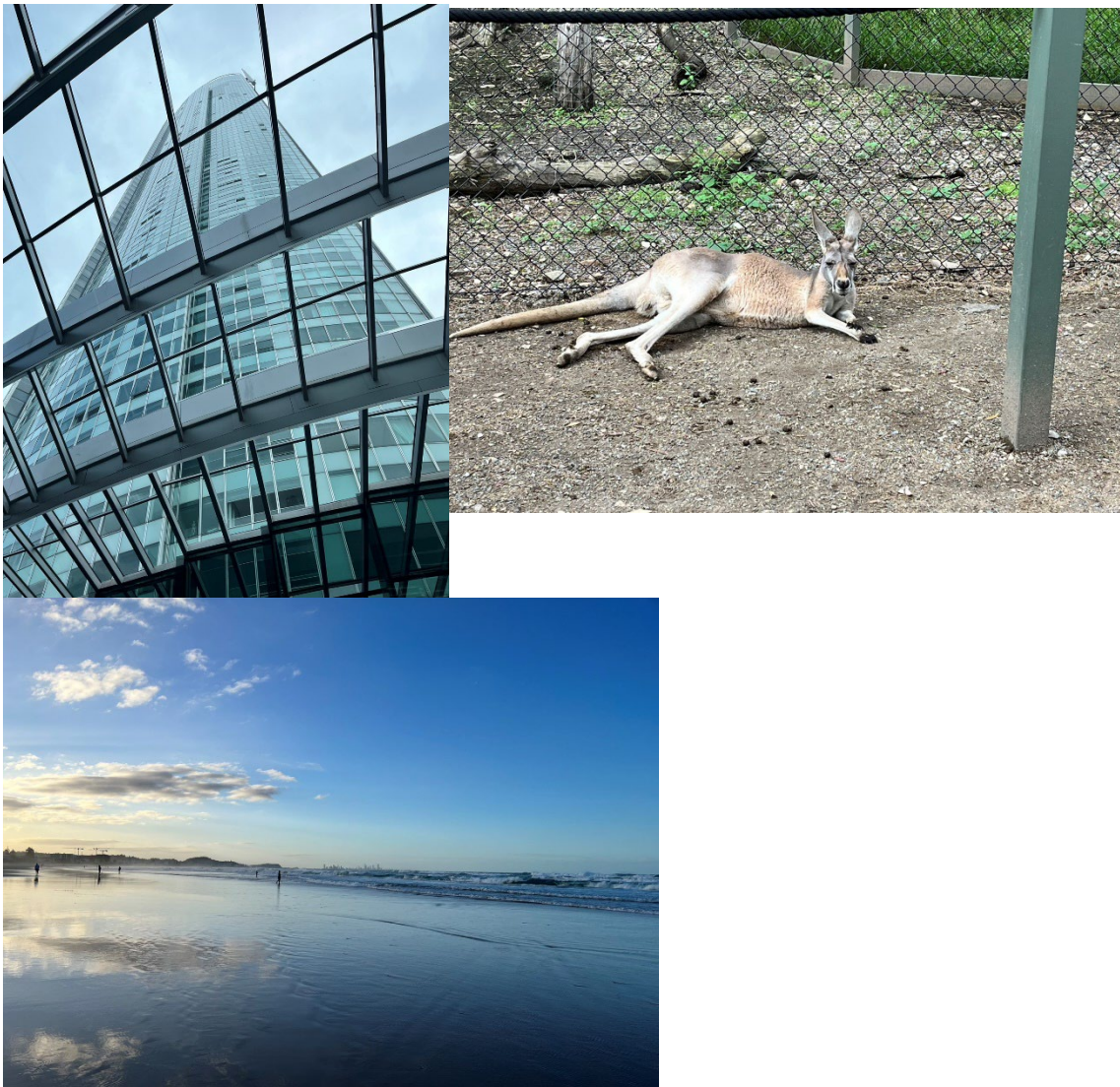


写真 4

3. ホームステイ先について

ホストファミリーは、高齢のご夫婦二人で犬がいる家庭でした。優しい家庭で、英語を聞き取りやすく話してくださり、自分が話す英語も一生懸命聞いてくださりました。また、朝食や夕食を一緒に食べながら日本についての話や、ホストファミリーが若かったころの話などの会話をし、チェスや折り紙をして楽しいひと時を過ごすことができました。

学校がない休日には、他のホストファミリーと一緒にカランビン動物園に行きました。別の日には、ショッピングセンターや、Q1 という東京タワーとほぼ同じ高さのビルに上ったり、ビーチに行って犬の散歩をしました。



4. 最後に

今まで、海外でホームステイをしたことがなく、出発前は不安があったのですが、実際に行ってみると、オーストラリアはホストファミリーや学校の方、お店の方やすれ違う人がみんなフレンドリーで、10日間だととても短く、もっと滞在したいと思いました。また、自分の英語も最初はあまり伝わりにくかったですが、後半の日程からは自分の意思を伝えることや、相手が何を言っているかを理解することができるようになりました。

このことから、英語は書いたり読んだりするだけではなく、話すことが一番大切だということを知りました。

この研修を通して、日本だけでなく海外で活躍するという選択肢を知ることができ、考え方や視野を広げることができたと感じました。